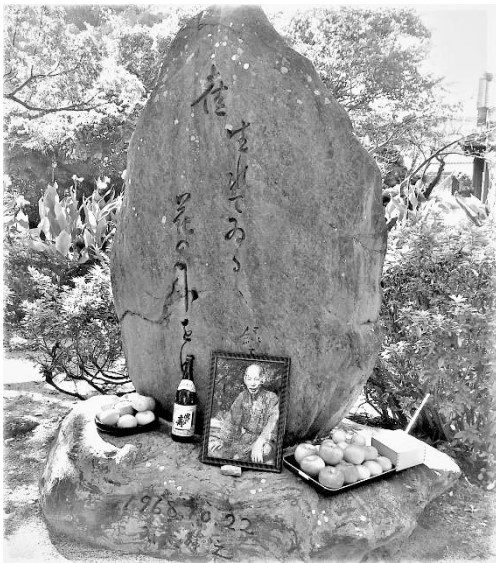


自由律俳句協会ニュースレター

発行：自由律俳句協会

編集責任者 野谷真治

木村緑平顕彰会 第 50 回句碑祭、第 21 回総会が開かれました



木村緑平さんの81回目の誕生日に当たる昭和43年10月22日に、福岡県柳川市内城内の柳城児童公園で句碑の除幕式行われました。それから毎年、緑平さんの誕生日に句碑祭が行われています。

句碑(左写真)の位置は、公園内の柳川出身の作家長谷健の文学碑と柳川名物鰻供養碑との中間にあたり、句碑のうしろには桜の並木、そのうしろを観光の川下りの舟が過ぎてゆきます。句碑の表には「雀うまれてゐる花の下をはく」、裏には「草の花ほんに月がよか」の句が、緑平さんの筆蹟

を拡大して刻まれています。

今年も10月22日に句碑前で木村緑平第50回句碑祭、木村緑平顕彰会第21回総会が、福岡県柳川市婦人会館で行われました。

今年の特筆すべき活動は、中村敦夫氏の柳川来訪と、緑平ジュニア賞。3月25日に緑平顕彰会へ連絡があり、朗読で緑平さんを知った俳優で作家の中村敦夫氏が柳川を来訪(右写真)。緑平さんの居跡・句碑・お墓へと中村氏を案内しました。中村氏のこの突然の訪問は驚きでしたが、中村氏を動かしたのは、緑平さんの魅力だったと思います。



緑平さんを広く伝えようと、柳川市内の小・中学生を対象に句を募集し、「緑平ジュニア賞」を行っています。10月22日の句碑祭の後には「緑平ジュニア賞」の優秀賞受賞者の表彰式も行われました。(記：荻島架人)

★別紙に木村緑平の句の鑑賞文(著者：佐瀬茶楽)を添付しました。

第 21 回 自由律俳句フォーラムの報告

11月23日（金祝）13:30～17:00 東京都江東区の芭蕉記念館分館で開かれたフォーラムの報告です。今回のプロデュースは「海紅」若手メンバー5人で進められました。

① 「自由題」句会……投句86句、投句者43名。司会は森直弥氏

事前に投句者全員が各自5句（特選1句）を選句し、その結果の詠草集が当日配布されました。上位句を紹介します。

◎大賞（最高点10点） 不公平の舟に乗る 杉本ゆきこ

「船」ではなく「舟」が人生や世の中の不公平を上手く表現している。

◎二位（10点） 抱きしめても埋まらない距離を持つ 若木はるか

物理的距離と心との差に疎外感を感じ、SNSの世界を思わせる。

◎三位（9点） 後悔を出しっぱなしにする夜の蛇口 荒木 勉

人間の心理を突いた句、夜の蛇口が利いている。

◎三位（9点） 散るまでを咲いて風を待つ 寺田和可

特定の花と言っていない。「を」が咲いて散るまでの人生を強調。

② 「尾崎放哉の魅力」をテーマで勉強会……司会はさいとうこう氏

最初に、放哉の年譜で半生を復習。今回の対象句は放哉秀作時代ともいえる大正12年から15年までの50句。事前に各自5句（特選1句）を選句した結果をもとに感想が披露されました。秀逸句ばかりですが、あえて上位句は次の通り。

◎大賞（18点） 咳しても一人（小豆島時代）

放哉らしい孤独感に圧倒される句で、正に代表作です。

◎二位（16点） 淋しいからだから爪がのびだす（小浜時代）

自らを追い込んだ命の寂しさが人の心を打つ。

◎三位（15点） 鐘ついて去る鐘の余韻の中（須磨時代）

鐘の音が五感に響き気持ちが落ち着く。

最後に、自由律俳句協会の新たなスタートについて、佐瀬広隆会長より趣旨の説明があり、ニュースレターNo. 1、入会申込書が配布されました。早速、1名の入会者がありました。終了後の懇親会では忌憚のない意見交換があり、有意義に終了しました。

（記：白松いちろう）

文学フリマをゆく

2018年11月25日（日）11:00～17:00 東京流通センター第二展示場にて、「第27回文学フリマ東京」が開催されました。980のブースが出店され、盛況でした。

このイベントには、前回より、自由律俳句結社の「海紅」が参加されています。今回は、1階の入口近くのブースにて出店。句誌『海紅』が並べられ、同人の田中耕司氏、平林吉明氏、杉本ゆきこ氏らの句集が販売されていました。



会場は、1階は主に文芸関係(俳句、短歌、小説など)。2階は文芸とともに、サブカルチャーの研究誌などが並べられていました。各大学の文芸誌もあり、若者達が、自ら作った雑誌や単行本を、自ら売っていました。若者のブースが続く中に、年配の方々も多数参加されていました。文学フリマは、各地で開催されています(入場無料)。今後の開催予定を下記、紹介します。

- ・2019年1月20日(日)第3回京都
- ・2019年2月24日(日)第1回広島
- ・2019年3月24日(日)第3回前橋
- ・2019年4月20日(土)第5回金沢
- ・2019年5月6日(月祝)第28回東京
- ・2019年6月9日(日)第4回岩手
- ・2019年7月7日(日)第4回札幌
- ・2019年9月8日(日)第7回大阪
- ・2019年10月20日(日)第3回福岡



※詳細は「文学フリマ」公式サイトで (記:野谷真治)

貴重な句集・句論の電子書籍化プロジェクトが発足しました

全国各地に散在する、自由律俳句に関する貴重な活字資産(句集・句論など)を電子化し、いつでもどこでも引き出せるアーカイブを作り、自由律俳句の普及に貢献するための「電子書籍化プロジェクト」を自由律俳句協会内に設置しました。

<電子化作業の手順>

工程①(紙媒体をPDFにする)

(A) 紙媒体の本を裁断してパソコンへ取り込む方法

製本された本をカッター等で中央から裁断し、その後にスキャナーで読み込んだデータをパソコンへPDFとして転送します。裁断された本はバラバラになってしまいますが、その代わりに一枚一枚に対して綺麗で正確なスキャンを行えます。代行して行う業者は多数存在します。1冊あたり100円前後と安価で電子書籍のデータを手に入れることができるため、各結社の機関誌のバックナンバーを電子化するのに適しています。

(B) 本を裁断することなくパソコンへ取り込む方法

裁断することの出来ない貴重な本についてはブックスキャナーと呼ばれる本を開いたまま読み込み作業を行うことができる専用の機械を使用します。協会会員の所有のブックスキャナーを使い、原本を傷つけずに手作業で取り込みます。

工程②(PDF化したデータをホームページに掲載)

PDF化が完了したデータはすべて自由律俳句協会の電子書籍欄に掲載します。

ホームページに掲載されたデータはパソコンやスマートフォンやKindleなど様々な媒体を通して読むことが可能となります。

工程③（電子書籍として出版する）

自由律俳句の普及の一環として、ホームページの他に Amazon の Kindle などの販売ストアを通じ電子書籍として出版することも可能です。

出版するに当たっては販売価格を設定する必要がありますが、広く手にとってもらえるよう 0 円で販売することもできます。協議して価格設定する場合、自由律俳句協会に何割かのロイヤリティをいただければ、これを運営費にあてることができます。

□ この電子書籍化の話を、「層雲自由律」の伊藤完吾代表に相談したところ、鎌倉市の「有隣亭」が所蔵する、「層雲」関連の貴重な蔵書を随時、電子図書化することの賛同を得ました。その最初の試みとして、2004 年に発行された「層雲自由律 90 年作品史」を PDF 化し、ホームページに掲載しました。

さらに、現在、電子書籍として販売ルートに乗せるための試行をしております。

また、松岡月虹舎氏の協力で、2018 年 12 月発行の「常盤ネットワーク増刊号 下村逸蒼特集総集編」を PDF 化、電子書籍化しました。

会員の皆様で、この句集をぜひ電子化して永久保存したいという方、また、電子書籍として販売してみたいと思われる方はご相談ください。一つ一つ、ケーススタディしながら、自由律俳句の存在を未来へつないでいく方法を模索していきたいとプロジェクトでは考えています。関心のある方は Jiyurituhaiku@gmail.com まで御連絡ください。
(電子書籍化プロジェクト 新山・松岡)

新たに会員になれる方を募ります！

「自由律」の活動を文学史に深く刻むために、主張の違いを乗り越えて「ゆるやかな結束」を呼びかけ新たな会員を募ります。

◆年会費 個人会員 3,000 円 結社・グループ会員 3,000 円 学生会員 1,000 円

◆申込先 〒270-2329 千葉県印西市滝野 2-6-16 白松いちろう方

自由律俳句協会事務局 e-mail : siroo@mist.ocn.ne.jp

★11 月には、個人会員 3 名、結社・グループ会員 1 団体が新たに入会されました。

協会を運営するために、以下の口座に会費納入を何卒よろしくお願ひします。

郵便振替 口座記号番号 00180-9-417884 加入者名「自由律俳句協会」

ゆうちょ銀行 記号 10050 番号 03963121 自由律俳句協会

※ゆうちょ銀行口座から振り替える場合は振込料が無料になります（回数制限あり）

★11 月 23 日現在、26 名、2 団体から入金がありました。また、小山榮康さん、野田麻由可さんより併せて賛助金を頂戴いたしました。ご支援感謝します。(会計 平岡)

自由律俳句協会 ホームページを活用してください。

情報・提案もお待ちしています！

<https://www.自由律.com/>